

お わ り に

この4月から新学習指導要領の全面実施となります。本校では学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、3年間、「言語活動の充実と道徳教育の推進」の研究主題のもと実践研究に取り組んできました。

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ」ことをねらい、各教科で言語活動の充実に努めてきました。併せて、ペアや4人グループでの協同学習を取り入れた授業やICT機器を積極的に取り入れた実践研究も行ってきました。

一方、道徳教育の充実については、道徳の時間における中心発問の工夫や、各教科並びに学年のさまざまな活動における道徳教育に関わる視点、生徒による授業評価などを意識して取り組んできました。

21世紀を生きていく子どもたちには、確かな学力を培うとともに豊かな心をはぐくみ、バランスのとれた人間に成長してほしいと強く願っています。

また、本校では、研究発表会以外に年に数回校内大研の名称で、各教科や道徳の公開授業・研究協議の案内を県内すべての中学校に送ってきました。県内に広く実践を発信できる学校でありたいと考えたからです。ここ数年、本校の研究発表会への参加者が増えてきているのも本校職員の実践を発信する機会が増えたことにもよるかと思えます。

附属学校は地域の教育拠点として先進的な教育に取り組み、その成果を発信していくことが求められています。来年度は新たなテーマとなりますが、これまでの研究の積み重ねをいかしてより発信力のある学校をめざしてまいります。

本年度の実践については、最終年度の研究として私たちに然りに見えてきたことを研究紀要にまとめました。一人でも多くの先生方にご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見、ご教示をいただければ幸いと存じます。ご指導いただきましたことを糧に、私たちは、さらに研鑽を深め、研究を進めてまいりたいと考えています。

最後になりますが、本研究の推進や教育研究協議会の開催にあたり、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山大学教育学部をはじめとする関係各位の皆様、そして懇切なご指導と暖かい励ましをいただきました諸先生方に心よりお礼申し上げます。

平成24年3月

和歌山大学教育学部附属中学校
副校長 栗本昌彦